

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	伊藤貴一
主 論 文 題 目： インターネット環境における 探索的社会調査ツールの開発と実査				
(内容の要旨)				
<p>本研究の目的は、ソーシャルネットワークを始めとするさまざまなインターネット上のデータを分析対象とし、それらデータから構成されるネット社会を分析するために多様なツールを開発し、かつそのツールを活用した3タイプの社会調査を実施することで、まったく新しい探索的な社会調査手法の可能性を提示することである。本研究は、分析者がデータと対峙しながら試行錯誤を通じて探索的に知識を発見することを目的としているため、新たなAIの分野といわれる知的インタラクティブシステムの研究と方向性を共有し、かつそれを社会調査のツール開発と実査という研究レベルに特定化したものである。</p> <p>ツールは、データの取得から分析結果の可視化まで、総合的なプラットフォームとして開発されている。データ取得ツールは、インターネット上のデータを取得するスクレイピングツール「Rawler」、および画像イメージの調査アンケートサイト「GoocaBooca」の2つである。分析ツールは3タイプを開発した。第1は、インタラクティブな探索的テキストマイニングツール「ひっぱりくん」で、大量でかつアモルフなデータ群から多様な関係性を探索して、いわば暗黙知を新しい知識の地平に表出化することを可能にする。第2は、半数つきクラスタリングに基づいてデータを構造化する「こうぞうくん」で、全体（クラスタ間の差異性）と部分（クラスタ内の同一性）のバランスを探索的に調整して、最適な構造を確定する。第3は、構造化されたデータについてマイニングを通じてデータの解釈をする「ふかぼりくん」で、既存の構造を多様な条件指定（絞り込みや統合・削除など）により深層化を図り、隠された下位構造を炙り出すツールである。</p> <p>ツール活用の実査段階では、探索的な社会調査ツールが分析者にたいして新しい創発性（閃きや気づき）をもたらす、という価値探索機能があることが判明した。それは、つぎの6つの対抗的で補完的なフレーム、すなわち「自由と秩序」「価値表明と目的達成」「自明性と創発性」「階層とネットワーク」「目的と手段」「一般と特殊」というフレームの中で見出される機能である。このフレームこそ、3つの分析ツールについて、程度の差こそあれ共通してみられた価値探索機能を正当化する調査設計プラットフォームなのである。</p> <p>キーワード：探索的社会調査、ツール開発（ひっぱりくん、こうぞうくん、ふかぼりくん）、価値探索機能（表出化、構造化、深層化）、対抗的相補的フレーム、インターネット環境</p>				